

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和4年1月25日(2022.1.25)

【公開番号】特開2022-2806(P2022-2806A)
【公開日】令和4年1月11日(2022.1.11)
【年通号数】公開公報(特許)2022-003
【出願番号】特願2021-173023(P2021-173023)
【国際特許分類】
A 6 1 C 7/08(2006.01)
【FI】
A 6 1 C 7/08

10

【手続補正書】
【提出日】令和4年1月12日(2022.1.12)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項1】

取り外し可能な歯列矯正用アライナーであって、
患者の歯科アーチの第1の後ろ側部分上に適合する第1の形状を有する第1のプラスチックセグメントと、
前記患者の前記歯科アーチの第2の後ろ側部分上に適合する第2の形状を有する第2のプラスチックセグメントと、
前記第1のプラスチックセグメントと前記第2のプラスチックセグメントとの間に配置され、前記歯科アーチの前側部分の舌側に沿う形状を有し、前記歯科アーチの前記前側部分の頬側領域を覆っていたであろう前記歯列矯正アライナーの部分を切断することによって形成された、コネクタであって、前記プラスチックコネクタが、前記第1のプラスチックセグメントと前記第2のプラスチックセグメントとの間のギャップにまたがる、前記コネクタと、
を備える歯列矯正用アライナー。

30

【請求項2】

前記第1のプラスチックセグメント、前記第2のプラスチックセグメント、及び前記コネクタは、単一連続プラスチックボディの部分である、請求項1に記載の歯列矯正用アライナー。

【請求項3】

前記コネクタは、エラストマー、半硬質熱硬化性樹脂、又は半硬質熱可塑性樹脂のうちの少なくとも1つを含む、請求項1に記載の歯列矯正用アライナー。

40

【請求項4】

前記第1のプラスチックセグメントは、前記歯科アーチの前記第1の部分における第1の歯のセットに第1の力を印加するように構成され、前記第2のプラスチックセグメントは、前記歯科アーチの前記第2の部分における第2の歯のセットに第2の力を印加するように構成され、前記コネクタは、前記第1の歯のセットに印加された前記第1の力を前記第2の歯のセットに印加された前記第2の力から隔離するように構成されている、請求項1に記載の歯列矯正用アライナー。

【請求項5】

患者の歯科アーチの第1の後ろ側部分上に適合する第1の形状を有する第1のプラスチ

50

ックセグメントと、前記患者の前記歯科アーチの第 2 の後ろ側部分上に適合する第 2 の形状を有する第 2 のプラスチックセグメントとを備える、歯列矯正用アライナーを形成するステップと、

前記第 1 のプラスチックセグメントと前記第 2 のプラスチックセグメントとの間に配置され、前記歯科アーチの前側部分の舌側に沿う形状を有するコネクタを形成するために、前記歯列矯正用アライナーにおける、前記歯科アーチの前記前側部分の頬側領域を覆う部分を切断するステップと、

を含む方法。

【請求項 6】

前記第 1 のプラスチックセグメント、前記第 2 のプラスチックセグメント、及び前記コネクタは、単一連続プラスチックボディの部分である、請求項 5 に記載の方法。

10

【請求項 7】

前記コネクタは、エラストマー、半硬質熱硬化性樹脂、又は半硬質熱可塑性樹脂のうちの少なくとも 1 つを含む、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】

前記第 1 のプラスチックセグメントは、前記コネクタの第 1 の端部を保持する大きさ及び形状の第 1 の保持特徴を形成し、前記第 2 のプラスチックセグメントは、前記コネクタの第 2 の端部を保持する大きさ及び形状の第 2 の保持特徴を形成する、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】

前記コネクタは、前記歯科アーチの前記第 1 の後ろ側部分における第 1 の歯のセットに印加される第 1 の力を、前記歯科アーチの前記第 2 の後ろ側部分における第 2 の歯のセットに印加される第 2 の力から隔離するように構成されている、請求項 5 に記載の方法。

20

【請求項 10】

処理装置によって実行されると、前記処理装置に請求項 5 から 9 のいずれか一項に記載の方法を実行させる命令を含む、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項 11】

メモリ；及び

前記メモリに結合された処理装置であって、請求項 5 から 9 のいずれか一項に記載の方法を実行する前記処理装置、

30

を備えるシステム。

40

50